



## 2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月5日

上場会社名 株式会社スズケン

上場取引所 東名札

コード番号 9987 URL <https://www.suzuken.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮田 浩美

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員財務経理部長 (氏名) 野原 正伸

TEL 052- 961- 2331

四半期報告書提出予定日 2020年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,686,640	5.1	23,147	23.6	30,093	17.7	20,307	16.2
2019年3月期第3四半期	1,604,527	0.8	18,722	34.0	25,568	20.8	24,248	62.3

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 26,290百万円 (46.0%) 2019年3月期第3四半期 18,004百万円 (4.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	222.59	
2019年3月期第3四半期	257.00	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,262,934	419,712	33.2
2019年3月期	1,189,238	401,625	33.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 418,825百万円 2019年3月期 400,774百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		27.00		42.00	69.00
2020年3月期		32.00			
2020年3月期(予想)				32.00	64.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2019年3月期期末配当金の内訳 普通配当32円00銭 記念配当10円00銭

### 3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,133,000	0.0	24,600	9.7	32,900	9.0	21,600	28.5	236.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	103,344,083 株	2019年3月期	103,344,083 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	12,328,331 株	2019年3月期	12,071,899 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	91,233,294 株	2019年3月期3Q	94,350,066 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用・所得環境の改善や政府の経済政策の効果もあり、景気は緩やかな回復基調が続いておりますが、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響等、先行き不透明な状況であります。

当社グループは、2020年3月期を最終年度とする3ヵ年の中期成長戦略「One Suzuken 2019」の実現に向けて、お得意さまの真のニーズの追求と対応、多様な企業との協業による新たな機能やビジネスモデルの構築、さらに、低コスト経営の実現により更なる企業価値向上を目指しております。

当第3四半期連結累計期間においては、引続き、希少疾病薬や再生医療等製品を含むスペシャリティ医薬品の流通モデル構築、およびMS(※1)の活動による新たな収益モデル構築に向け、多様な企業との協業を進め、「取引」から「取組」によるフィー獲得モデルへの転換を進めております。

具体的には、スペシャリティ医薬品トレーサビリティシステムである「キュービックス」の流通品質の向上などを図り、全国の地域中核病院などへ導入を推進しております。加えて、再生医療等製品の流通モデルの構築においては、当社グループの持つ機能やインフラ整備をもとに、ノバルティスファーマ㈱のCAR-T細胞療法「キムリア」(※2)の日本国内における流通受託に続き、サンバイオ㈱の再生細胞薬の流通に関する基本契約を締結するとともに、患者サポートシステム「R-SATシステム」を共同開発することで合意しております。当社グループは、厳格な温度管理と確実なトレーサビリティを確保しつつ、再生医療等製品を流通させる医療流通プラットフォームの構築を推進しております。

また、新たな医療情報プラットフォームの構築や新たなソリューションを提供するために、Dr. JOY㈱および㈱Welbyと資本業務提携を行い、両社共同の取組みによって、革新的なサービスや情報ビジネスを推進し、製薬企業や医療機関、保険薬局、患者さまへの新たな価値の提供を目指してまいります。

さらに、一歩進んだ地域包括ケア等の一層の推進を目指し、愛知県大府市と「地域包括ケアの推進等に関する連携協定」を締結しております。当社グループの地域包括ケアに対する取り組みは、大府市の地域包括ケアに関する各種施策をさらに推進するとともに、三師会(※3)をはじめとする関係機関との連携を強化してまいります。

なお、当社グループは、安定的な配当の継続を基本に、連結配当性向30%を目処として配当を実施するとともに、2019年3月期から中期成長戦略「One Suzuken 2019」の最終年度である2020年3月期までの2年間平均総還元性向80%以上を目処として自己株式の取得を実施することにより、株主還元の充実を図るとともに、企業価値と資本効率の向上を目指しております。その一環として、2019年11月6日開催の取締役会において、100億円を上限とし自己株式を取得することについて決議しております。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は1兆6,866億40百万円(前年同期比5.1%増)、営業利益は231億47百万円(前年同期比23.6%増)、経常利益は300億93百万円(前年同期比17.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は203億7百万円(前年同期比16.2%減)となりました。

なお、当社は2019年11月27日に、独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)の入札に関して独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立ち入り検査を受けました。このことを厳粛に受け止め、その後の公正取引委員会の調査に全面的に協力しております。

#### ※1 MS (Marketing Specialist)

：医薬品卸売業の営業担当者のこと。医療機関・保険薬局等を訪問し、医薬品の紹介、商談、情報の提供や収集を行う

#### ※2 CAR-T細胞療法「キムリア」

：CAR-T細胞療法は、患者の末梢血から採取したT細胞に、遺伝子導入により、CD19抗原を認識して攻撃するCAR(キメラ抗原受容体)を発現させ、点滴で患者の体内に戻すことで投与される画期的な免疫療法です。「キムリア」は、2019年3月26日に、「再発・難治性CD19陽性のB細胞性急性リンパ芽球性白血病(B-ALL)」「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)」を適応として、国内でCAR-T細胞療法として初めて、厚生労働省より製造販売承認を取得しております。

#### ※3 三師会

：日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、あるいは地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会を指します。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(単位：百万円未満切捨て)

セグメントの名称		2019年3月期 第3四半期連結累計期間	2020年3月期 第3四半期連結累計期間	増減率(%)
医薬品卸売事業	売上高	1,538,612	1,621,725	5.4
	営業利益	15,237	19,355	27.0
医薬品製造事業	売上高	36,194	34,467	△4.8
	営業利益	1,056	1,634	54.7
保険薬局事業	売上高	70,546	72,551	2.8
	営業利益	1,112	987	△11.2
医療関連サービス等事業	売上高	45,471	74,806	64.5
	営業利益	1,119	1,131	1.1

(注) セグメントの売上高にはセグメント間の内部売上高を含んでおります。

(医薬品卸売事業)

医療用医薬品市場は、C型肝炎治療剤の販売減少や後発医薬品使用促進および2019年10月の消費税増税に伴う薬価改定の影響があったものの、抗悪性腫瘍剤の市場拡大やスペシャリティ医薬品等の新薬の寄与などにより、伸長したものと推測しております。

そのようななか、売上高は、市場伸長に加えて、主にスペシャリティ医薬品をはじめとする新薬の販売増加や個々のお得意さまのニーズにお応えする活動に継続して取組んだことなどにより増収となりました。

営業利益は、増収効果および厚生労働省により策定された「医療用医薬品の流通改善に向けて流通関係者が遵守すべきガイドライン」を踏まえ、引続き個々の医療用医薬品の価値に見合った価格交渉を徹底したことなどにより増益となりました。

これらの結果、売上高は1兆6,217億25百万円（前年同期比5.4%増）、営業利益は193億55百万円（前年同期比27.0%増）となりました。

なお、2019年10月薬価改定に伴う現時点における販売価格の未決定先は、全体の8割弱であり、その先については、お得意さまがご要望されている価格水準などを踏まえ見積計上しております。今後、価格決定に向けての厳しい価格交渉が予想されますが、当社提示価格で妥結できるよう粘り強く価格交渉するとともに、引続き適正利益の確保に向けた活動を徹底してまいります。

(医薬品製造事業)

売上高は、新製品である2型糖尿病治療剤「メトアナ配合錠」の早期売上最大化に向け取組むとともに、DPP-4阻害剤「スイニー錠」や高尿酸血症・痛風治療剤「ウリアデック錠」などを中心に販売促進に努めたものの、前年同期に研究開発売上があったこと、および糖尿病食後過血糖改善剤「セイブル錠」の特許切れに伴う後発医薬品の影響などにより減収となりました。

営業利益は、販売費及び一般管理費の抑制に努め、増益となりました。

これらの結果、売上高は344億67百万円（前年同期比4.8%減）、営業利益は16億34百万円（前年同期比54.7%増）となりました。

なお、自社創薬により獲得したSK-1404を夜間頻尿治療薬として開発するため、杏林製薬㈱とライセンス契約を締結し、共同で後期第Ⅱ相試験を実施してきましたが、杏林製薬㈱の戦略上の理由によるライセンス契約解除の申し出があり、契約を終了（2020年2月5日）し、後期第Ⅱ相試験を中止しております。

(保険薬局事業)

売上高は、薬剤収入の増加や薬局のかかりつけ機能強化の取組みによる技術料収入の増加などにより、増収となりました。

営業利益は、薬剤の仕入れにかかる消費税の増加などにより減益となりました。

これらの結果、売上高は725億51百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は9億87百万円（前年同期比11.2%減）となりました。

(医療関連サービス等事業)

売上高は、主に、メーカー支援サービス事業(医薬品メーカー物流受託・希少疾病薬流通受託)の受託が増加したことや、介護事業において利用者が増加したことなどにより増収となりました。

営業利益は、介護事業における増収効果などにより増益となりました。

これらの結果、売上高は748億6百万円(前年同期比64.5%増)、営業利益は11億31百万円(前年同期比1.1%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ736億95百万円増加し1兆2,629億34百万円となりました。主な要因は以下のとおりであります。

流動資産は前連結会計年度末に比べ646億85百万円増加いたしました。これは主に、有価証券が95億15百万円減少したものの、現金及び預金が120億26百万円、受取手形及び売掛金が410億10百万円および商品及び製品が191億55百万円増加したことによるものであります。

固定資産は前連結会計年度末に比べ90億9百万円増加いたしました。これは主に、投資その他の資産が95億86百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ556億7百万円増加し8,432億21百万円となりました。これは主に、未払法人税等が60億7百万円減少したものの、支払手形及び買掛金が624億23百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ180億87百万円増加し4,197億12百万円となりました。これは主に、剰余金の配当の支払が67億54百万円あったものの、その他有価証券評価差額金の増加が61億12百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益を203億7百万円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2019年5月13日に公表いたしました予想数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	212,579	224,605
受取手形及び売掛金	500,943	541,953
有価証券	52,304	42,788
商品及び製品	140,691	159,847
仕掛品	2,250	2,205
原材料及び貯蔵品	3,214	3,724
その他	26,581	27,938
貸倒引当金	△1,356	△1,170
流動資産合計	937,208	1,001,893
固定資産		
有形固定資産	116,776	118,043
無形固定資産		
のれん	850	523
その他	12,778	11,263
無形固定資産合計	13,629	11,786
投資その他の資産		
投資有価証券	88,975	98,385
その他	33,545	33,778
貸倒引当金	△896	△953
投資その他の資産合計	121,624	131,210
固定資産合計	252,030	261,040
資産合計	1,189,238	1,262,934

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	730,656	793,079
短期借入金	56	31
未払法人税等	10,441	4,433
返品調整引当金	541	519
賞与引当金	7,622	3,761
その他	12,487	12,985
流動負債合計	761,806	814,810
固定負債		
役員退職慰労引当金	382	248
退職給付に係る負債	3,116	3,125
その他	22,308	25,037
固定負債合計	25,807	28,411
負債合計	787,613	843,221
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,546	13,546
資本剰余金	39,083	39,134
利益剰余金	364,783	378,336
自己株式	△47,565	△49,049
株主資本合計	369,847	381,968
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36,097	42,209
土地再評価差額金	△5,821	△5,821
為替換算調整勘定	80	△169
退職給付に係る調整累計額	570	638
その他の包括利益累計額合計	30,926	36,856
非支配株主持分	850	887
純資産合計	401,625	419,712
負債純資産合計	1,189,238	1,262,934

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	1,604,527	1,686,640
売上原価	1,464,118	1,542,251
売上総利益	140,409	144,388
返品調整引当金戻入額	524	541
返品調整引当金繰入額	577	519
差引売上総利益	140,356	144,410
販売費及び一般管理費	121,633	121,263
営業利益	18,722	23,147
営業外収益		
受取利息	239	184
受取配当金	1,344	1,283
受入情報収入	4,258	4,416
その他	1,399	1,444
営業外収益合計	7,241	7,328
営業外費用		
支払利息	42	40
不動産賃貸費用	176	176
その他	176	164
営業外費用合計	395	382
経常利益	25,568	30,093
特別利益		
固定資産売却益	1,614	342
中途解約違約金	—	123
その他	9,566	2
特別利益合計	11,180	468
特別損失		
固定資産除売却損	245	283
その他	62	26
特別損失合計	308	309
税金等調整前四半期純利益	36,441	30,253
法人税等	12,057	9,892
四半期純利益	24,384	20,360
非支配株主に帰属する四半期純利益	136	53
親会社株主に帰属する四半期純利益	24,248	20,307

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	24,384	20,360
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,148	6,112
為替換算調整勘定	△4	△5
退職給付に係る調整額	△61	67
持分法適用会社に対する持分相当額	△163	△244
その他の包括利益合計	△6,379	5,930
四半期包括利益	18,004	26,290
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,868	26,238
非支配株主に係る四半期包括利益	135	52

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	医薬品 卸売事業	医薬品 製造事業	保険薬局 事業	医療関連 サービス等 事業	
売上高					
外部顧客への売上高	1,500,081	12,273	70,531	21,640	1,604,527
セグメント間の内部売上高 又は振替高	38,530	23,920	14	23,831	86,295
計	1,538,612	36,194	70,546	45,471	1,690,823
セグメント利益	15,237	1,056	1,112	1,119	18,525

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	18,525
セグメント間取引消去	197
四半期連結損益計算書の営業利益	18,722

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	医薬品 卸売事業	医薬品 製造事業	保険薬局 事業	医療関連 サービス等 事業	
売上高					
外部顧客への売上高	1,580,466	10,804	72,537	22,831	1,686,640
セグメント間の内部売上高 又は振替高	41,258	23,662	14	51,974	116,910
計	1,621,725	34,467	72,551	74,806	1,803,550
セグメント利益	19,355	1,634	987	1,131	23,108

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容  
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	23,108
セグメント間取引消去	39
四半期連結損益計算書の営業利益	23,147

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。